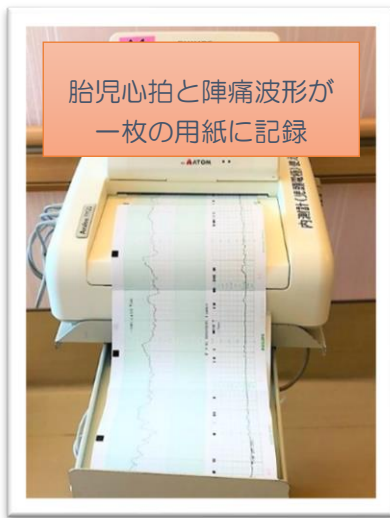


活動紹介：すべての母児の安全な分娩のために

～母性看護 CNS による分娩期胎児心拍数モニタリングの看護職への教育～

国立大学法人 滋賀医科大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター
母性看護専門看護師 中井 愛（なかい あい）

「安全に産んで、元気な赤ちゃんを抱っこしたい！」これは、すべての妊婦さんが医療に求めることです。いつの時代も分娩は母子にとって命がけです。それに応えるべく、私たち医療者は細心の注意のもと、お産のサポートをしています。



CTG 波形の一例

その方法の1つに、胎児心拍数モニタリング（Cardiocogram:以下 CTG と略します）があります。CTG は、妊婦さんのお腹にセンサーを装着し、赤ちゃんの元気度や陣痛の状態をみるものです。現在、わが国では9割以上の施設で、お産の時、この CTG で母児の安全をモニタリングしています。分娩が進むにつれ、母児の状態が急変することもあるため、私たちはその危険性を意識してケアにあたります。そして、それには CTG の正確な判読がかかせません。そのためには、CTG の正確な判読がかかせません。分娩にかかわる医療者は、ガイドラインに基づいた最新の知識をもって系統的な教育を受けることが推奨されています。

日本母性看護学会では約 10 年前から看護職を対象に CTG 研修を行っています。胎児生理学の詳しい講義や実際の事例をもとにした波形を場面毎に判読し、判読結果から次に行うケアを考えるようなトレーニングを行っています。

母性看護 CNS は産科医師と協力しながら、この研修で中心的な役割をとり、参加者が自信をもって CTG モニタリングが出来るようにサポートしています。さらに、自施設や近隣施設で働く助産師や看護師にも、これから復職を考えている潜在助産師、大学助産課程の学生等にも講義や演習を行っています。

分娩にかかわる多くの看護スタッフがより適切な分娩時ケアが提供でき、一人でも多くの母児が安全に分娩できるように、今日も母性看護 CNS は活動しています！！

<CNS の教育機能>



自施設での講義風景 皆で波形判読中